電気配線の仕様および注意事項

■電源配線

⚠ 警　告

■ 電源配線の仕様、サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定 JEAC8001（最新のもの）」に従う。電源線に不備があると発熱ショート火災の原因になります。

- 電源配線として使用する電線は、JIS C3342 [600V ビニル絶縁ビニルシースケーブル平2心または3心（VVF）] に規定するもの、またはこれと同等以上のものを使用してください。
- 室外ユニットは、必ずD種接地工事を行ってください。アース線は、φ2.0mm以上のものを使用し所定のアースねじに固定してください。
- 電源配線は、M4用圧着端子を使用して電源端子台に接続してください。
- 電源線の太さは下表に従って選定してください。

GHPエグゼアIIの場合

●室外ユニット電源（室内ユニットは別電源）　〈連結設置タイプの電源を別々の分岐回路からとる場合〉

型　式	電　源	過電流遮断器定格電流	漏電遮断器定格感度電流	電源配線	
				最小太さ	最大こう長
P450形	三相200V	20A	30mA	3.5mm²	119m
P560形					93m
P710形					64m
P850形					54m
P450形	単相200V	20A	30mA	3.5mm²	58m
P560形					46m
P710形					32m
P850形					27m

●室外ユニット電源（室内ユニットは別電源）　〈連結設置タイプ2台の電源を同じ分岐回路からとる場合（2台分の電流が流れる配線に適用）〉

型　式	電　源	過電流遮断器定格電流	漏電遮断器定格感度電流	電源配線	
				最小太さ	最大こう長(注1)
P450形×2	三相200V	20A	30mA	3.5mm²	51m
P450形+P560形					45m
P560形×2					40m
P560形+P710形					33m
P710形×2					28m
P710形+P850形					25m
P850形×2					23m
P450形×2	単相200V	20A	30mA	3.5mm²（5.5mm²）	29（46）m
P450形+P560形					25（40）m
P560形×2					23（36）m
P560形+P710形					18（29）m
P710形×2					16（25）m
P710形+P850形					14（23）m
P850形×2					13（22）m

（注1）（　）内数値は電源配線の太さを5.5mm²にした場合の参考値です。

小型シリーズの場合

●室外ユニット電源（室内ユニットは別電源）

型　式	電　源	過電流遮断器定格電流	漏電遮断器定格感度電流	電源配線	
				最小太さ	最大こう長(注1)
P224～P280形	三相200V	20A	30mA	3.5mm²	107（69）m
P355形					73（49）m
P224～P280形	単相200V	20A	30mA	3.5mm²	53（34）m
P355形					36（24）m

（注1）高静圧モード設定時は（　）内数値になります。

・ 上表は内線規定に従っています。
　上表の電源配線最大こう長は、電圧降下2%のときの値を示します。配線こう長が上表の値を超える場合は、配線太さを見直してください。
・ 上表に従い室外ユニットごとに過電流遮断機および漏電遮断機を設置し、配線してください。
・ 室内ユニットの電源配線は、専用の分岐回路から取ってください。
・ 室内ユニットに接続する電源配線、過電流遮断器、漏電遮断器、および配線要領などは室内ユニットの『据付説明書』に従ってください。

注）
・配線方法は内線規定（JEAC8001）に従っています。
　上表の電源配線最大こう長は、電圧降下2%のときの値を示します。
　配線こう長が上表の値を超える場合は、配線太さを見直してください。
・室外～室内間、室外～室外間連絡配線には2心線を用い、3心以上の線は絶対に使用しないでください。
・室内ユニットの電源配線は、専用の分岐回路から取ってきてください。
・室内ユニットに接続する電源配線、過電流遮断器および配線要領などは室内ユニットの据付説明書に従って行ってください。
・連絡配線は多心コードによる電源配線（200V）との混在使用は絶対にしないでください。
　また、電気ノイズの影響を受けないよう50mm以上離してください。
・連絡配線の合計長さは、最遠長:1000m、総配線長:2000m以下としてください。
　（シールド線使用時は総配線長1500m以内となります）

【室内ユニット電源】室外ユニットは別電源

室内ユニット合計電流	電源配線	
	最小太さ	最大こう長
7A以下	2mm²	21m
11A以下	3.5mm²	23m
15A以下	5.5mm²	26m

・室内ユニットの電源配線は、専用の分岐回路から取ってください。
　上表の電源配線最大こう長は、電圧降下2%のときの値を示します。
　配線こう長が上表の値を超える場合は配線太さを見直してください。

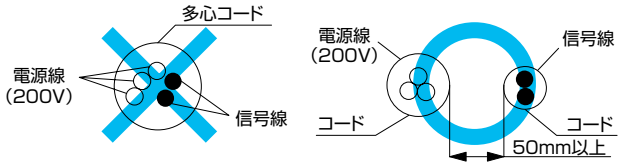
室内ユニットの過電流遮断器、漏電遮断器は室内ユニットの据付説明書に従って行ってください。

電気配線の仕様および注意事項

■室内・外連絡配線、室外・外連絡配線

お願い

■ 多心コードによる電源線（200V）との混在使用は絶対にしないでください。誤動作する場合があります。又、電気ノイズを受けないよう50mm以上離してください。



■ 医療用高周波機器、高周波ウェルダ加工機等、高周波を発生する機器が近くにある場合には、シールド線（CPEV・MVVS）を使用してください。誤動作するおそれがあります。
■ シールド線を使用する場合は、必ずシールド部を片側アースしてください。行わないと通信障害が発生する可能性があります。
■ 3心以上の多心線は絶対に使用しないでください。
■ 電線の太さは0.75mm²～1.25mm²を使用してください。
■ 制御用連絡電線は束ねて配線しないでください。
■ 連絡配線を束ねて、テープ・タイラップ等でとめながらの長距離配線は行わないでください。
■ 制御用連絡配線は、電気ノイズを受けないよう動力線と離して右記条件を満たす様、配線してください。

動力線電源容量		動力線と通信線の離隔距離（mm）	
		本システム	その他機器
220V以下	10A以下	50mm以上（※1）	300mm以上
	50A以下		500mm以上
	100A以下		1000mm以上
	100A超		1500mm以上

※1. 本システムについては、発生するノイズが極めて少ない為、離隔距離が50mm以上あれば十分です。

● 室内･外連絡配線、室外･外連絡配線、連絡設置連絡配線については極性がありません。
● 信号配線の合計長さは、最遠長:1000m、総配線長2000m以下としてください。
● 端子台への結線は、M3用の圧着端子を使用してください。
● 通信線には、下記2心のシース付ビニルコードおよびケーブルを使用してください。
・ビニルキャブタイヤ丸形コード　VCTF　JIS C3306
・制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル　CVV　JIS C3401
・600Vビニル絶縁ビニルキャブタイヤケーブル　VCT　JIS C3312
・制御用ビニル絶縁ビニルシースケーブル丸形　CVVS　JCS4285
・ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル　CPEV　JCS5224
・編組遮へい付計装用ケーブル　MVVS　JCS4271

■リモコン配線

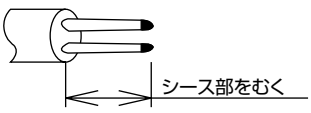
お願い

■ リモコンの端子（N, P）と室内ユニットの端子（N, P）とを接続してください。（N, Pの極性はありません）
■ ご注意:配線の際には電気ノイズ（外来雑音）を受けないよう、動力線とは離して配線してください。

配線仕様

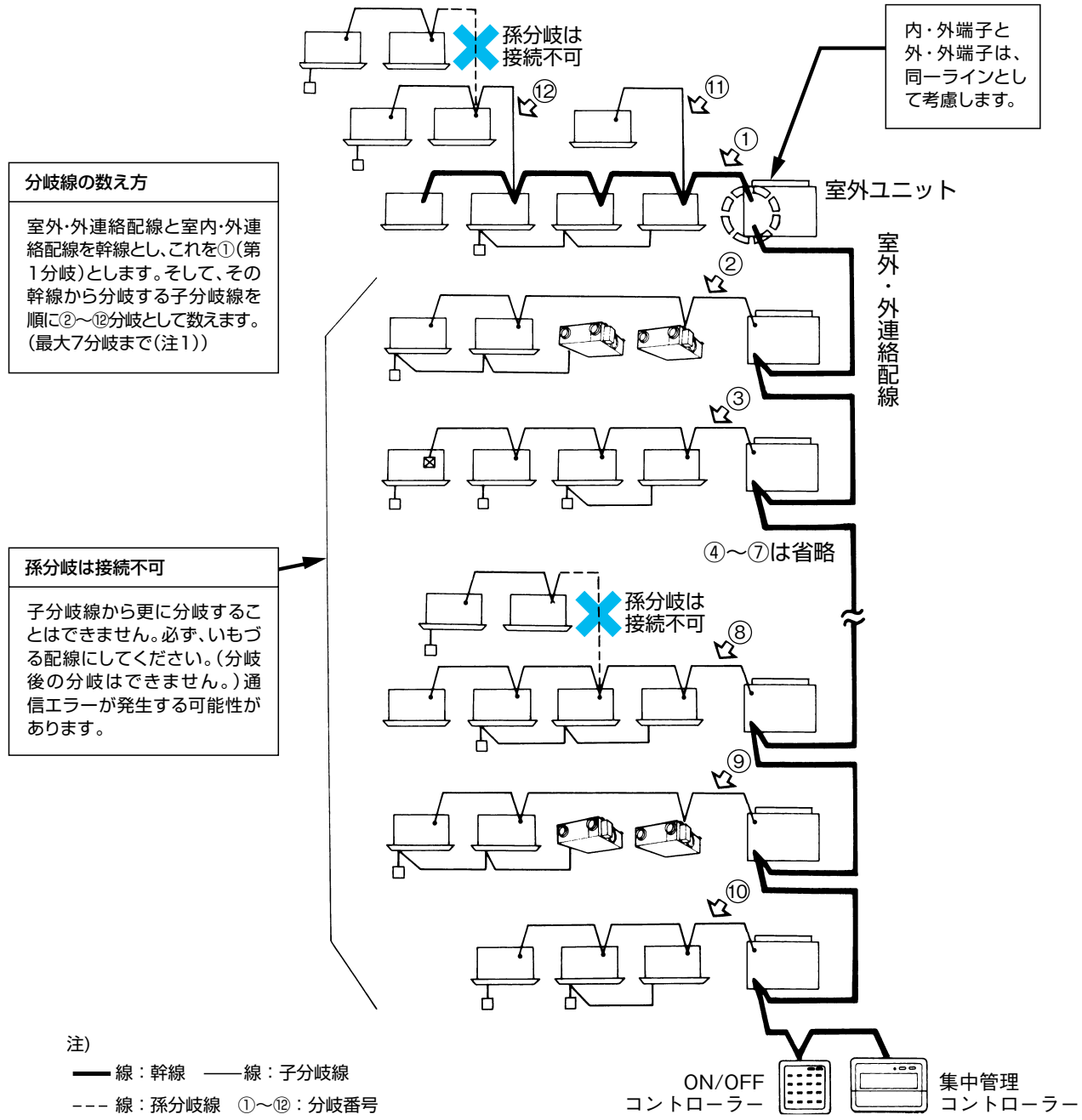
配線種類	シース付ビニルコードまたはケーブル
配線太さ	0.75～1.25mm²

注）リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。



■分岐配線システム事例 ※幹線から直接分岐するものを子分岐線、更に、子分岐線から分岐するものを孫分岐線とします。

●集中制御機器を室外・外連絡配線に接続した場合



分岐線の数え方

室外・外連絡配線と室内・外連絡配線を幹線とし、これを①（第1分岐）とします。そして、その幹線から分岐する子分岐線を順に②～⑫分岐として数えます。（最大7分岐まで（注1））

孫分岐は接続不可

子分岐線から更に分岐することはできません。必ず、いもづる配線にしてください。（分岐後の分岐はできません。）通信エラーが発生する可能性があります。

注）
━━ 線：幹線　——線：子分岐線
--- 線：孫分岐線　①～⑫：分岐番号

（注1）室外ユニットの接続台数が7台を超える場合は、DIII-NET拡張アダプターをご使用ください。
ただし、状況によっては室外ユニットが7台以下の場合でも、DIII-NET拡張アダプターの取付けが必要な場合があります。

お願い 上記例のように、できるだけ集中制御機器は、室外・外連絡配線に接続してください。（室内・外連絡配線に接続した場合には、その接続した系統が万一システムダウンすると正常な系統も管理できなくなります。）